

放課後子供教室における連携の充実に向けて ～県内外の放課後子供教室の先行事例に学ぶ～

広島県立生涯学習センター
主査 柳川明美

調査研究の概要

本研究では、放課後子供教室（以下「教室」という。）と放課後児童クラブ（以下「クラブ」という。）、学校、家庭など、各関係機関との連携の状況について、全国のデータや、広島県内の様子などを通じて明らかにしようとしている。

さらに、広島県内をはじめ、全国の教室の中で、各関係機関との連携を先進的に行っている教室について、モデル事例として、その取組を示すとともに、それらのことを通じて見えてきたことを基に、各関係機関との連携についての提案を行う。

今年度、厚生労働省、文部科学省によって示された「放課後子ども総合プラン」の中で、教室とクラブの一体的又は連携的な実施について、具体的な数値目標を示されるとともに、教室の実施に当たり、学校とクラブ及び教室との連携・協力の必要性が述べられた。また、近年の子供を取り巻く状況から考えても、教室とクラブあるいは、学校、家庭など、各関係機関との連携の大切さは重要度を増していると考えられる。

全国の連携に関わる現状を見ると、教室と学校間では、情報交換はある程度行われているが、運営について協働、協議を行うまでの連携は十分ではない。教室と家庭間では、教室への参加経験がない保護者の割合が高い。教室とクラブ間では、「一体的に実施」、「連携して実施」について、共に低い数値になっている。広島県内では、教室と学校間、教室と家庭間では何らかの連携を行っている割合が9割を超える一方で、教室とクラブ間の連携は半数程度に留まっている傾向が分かる。

そうした中、各関係機関との取組に積極的に取り組んでいる事例も多くある。今回、県内の事例では、教室と家庭間の連携のモデル事例として、庄原市の山内放課後子ども教室、教室と家庭、クラブ間の連携のモデル事例として、安芸郡府中町の府中町放課後子供教室を取り上げた。全国的事例では、教室と学校間のモデル事例として、京都府長岡京市の神足すくすく教室、教室とクラブの一体的実施のモデル事例として、東京都世田谷区BOPを取り上げた。

これらのことから見えてきたことを参考に、教室と学校、教室と家庭、教室とクラブとの連携を進める上で必要な、連携の素地づくり、連携しやすい行事などについての提案を行う。

調査研究の構成

テーマ設定の理由

- 1 連携に関わる現状と分析～全国～
- 2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～
- 3 連携のモデル事例
- 4 連携についての提案
- 5 まとめ

参考文献

放課後子供教室における
連携の充実に向けて
～県内外の放課後子供教室の先行事例に学ぶ～

広島県立生涯学習センター
主査 柳川 明美

テーマ設定の理由 研究のねらい

- ① 放課後子供教室における学校・家庭・放課後児童クラブ等との連携の状況について、現状を整理する。
- ② 先進事例をもとに、放課後子供教室における各機関との連携の具体的な取組や工夫についての方策と、今後の展望を考察する。

以上のことで、県内の放課後子供教室教育活動サポーター、放課後子供教室コーディネーター等へ、各機関との連携の必要性について再確認できるものとしたと考え本テーマを設定した。

目次

テーマ設定の理由

- 1 連携に関わる現状と分析～全国～
 - 2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～
 - 3 連携のモデル事例
 - 4 連携についての提案
 - 5 まとめ
- 参考文献

テーマ設定の背景

全国の状況

● 子供を取り巻く状況の多様化, 複雑な家庭環境, 発達上の課題を抱えるなど, 配慮を要する子供が増加。

● 「放課後子ども総合プランについて」
放課後児童クラブ及び放課後子供教室の, 一体的又は連携実施の目標
放課後子供教室の実施に当たり「学校と放課後児童クラブ及び放課後子供教室との密接な連携・協力が必要」

これらのことから

放課後子供教室と学校・家庭・放課後児童クラブ等との
連携の大切さは重要度を増している。

1 連携に関わる現状と分析～全国～

(1) 国が示す目標①

～厚生労働省、文部科学省「放課後子ども総合プラン」より～

〈趣旨・目的〉

- 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める

〈国全体の目標〉

- 平成31年度末までに、以下を実施することを目指す
 - ・ 放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備
 - ・ 全小学校区(約2万か所)で放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体型で実施

1 全国的な連携に関わる現状と分析

(2) 国が示す目標②

～厚生労働省、文部科学省「放課後子ども総合プラン」より～

市町村における放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施に当たり

- (ア) 学校施設を活用した放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施促進
- (イ) 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施
- (ウ) 放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施
- (エ) 学校・家庭と放課後児童クラブ及び放課後子供教室との密接な連携
- (オ) 民間サービスを活用した多様なニーズへの対応

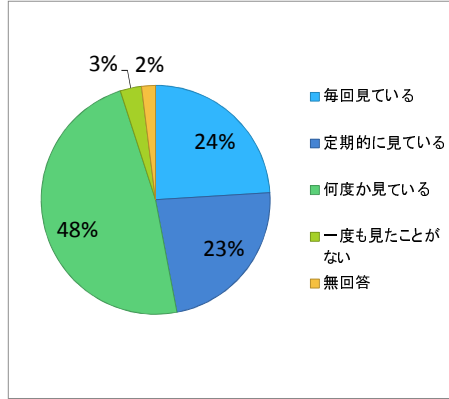
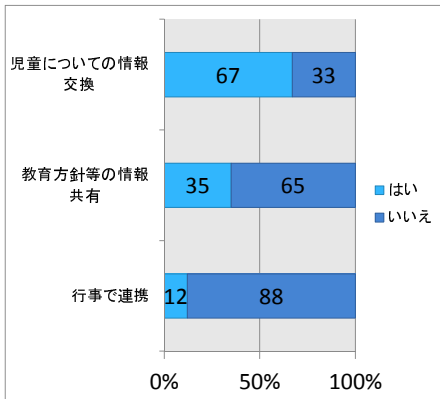
連携に関わる現状と分析～全国～

(3) 学校との連携

～文部科学省委託調査「放課後子どもプラン実施状況調査報告書」より～

「学校と放課後子どもプラン指導者、コーディネーターとの間で次の連携をしている」

「放課後子供教室の活動を教職員が見たことがある」



※放課後子供教室関係者、放課後児童クラブ関係者を含む

連携に関わる現状と分析～全国～

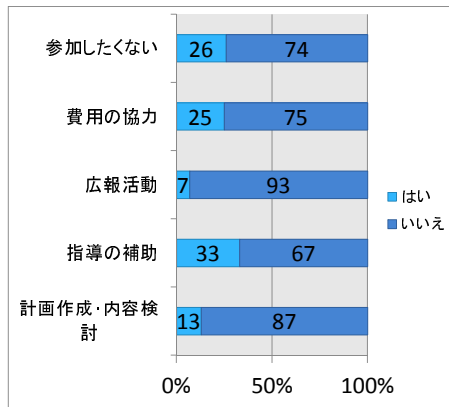
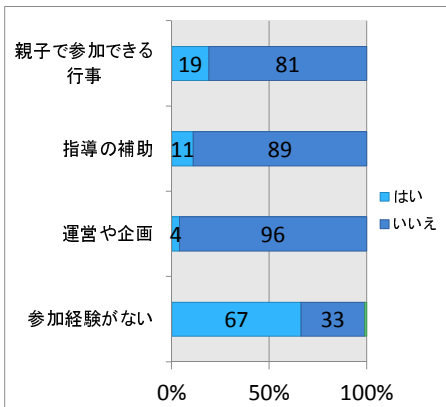
(4) 家庭との連携

～文部科学省委託調査「放課後子どもプラン実施状況調査報告書」より～

※(放課後子供教室に通う子の保護者への問い)

「次の方法で放課後子供教室へ参加したことがある」

「今後、放課後子供教室運営にどんな参加をしたいか」



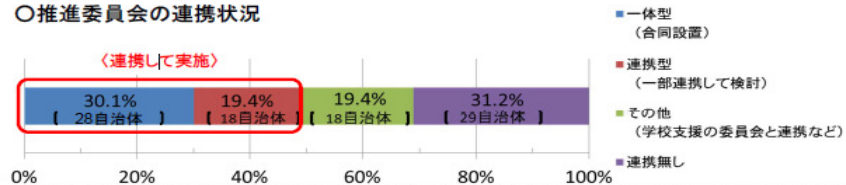
1 連携に関わる現状と分析～全国～

(5) 放課後児童クラブとの連携①

放課後子供教室と放課後児童クラブの連携状況①

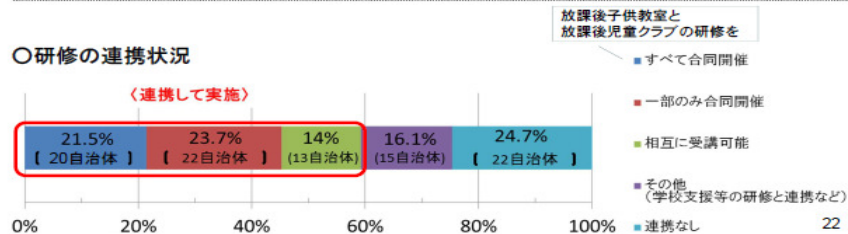
【都道府県レベルの連携】 N=93 (「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」事業計画書より集計 (w25.10現在))

○推進委員会の連携状況



※放課後子供教室を実施している自治体の約50%は何らかの形で放課後児童クラブと連携して推進委員会を設置している

○研修の連携状況



1 連携に関わる現状と分析～全国～

(6) 放課後児童クラブとの連携②

○ 放課後子供教室実施小学校校区のうち、放課後児童クラブと連携して実施している校区数の割合は**19.3%**
(1103/5707)

○ 放課後子供教室実施小学校校区のうち、放課後児童クラブと一体的に実施している校区数の割合は**10.0%**
(569/5707)

※「連携して実施」...クラブと教室が別々の部屋を使用して実施している場合で、クラブの子供が教室に参加するなどの活動をしている状態

※「一体的に実施」...クラブと教室が同じ部屋を使用して実施している場合で、子供たちが一緒に活動している状態

～文部科学省「放課後子どもプラン実施状況調査について」より～

各関係機関との連携がもたらすメリット

～県内の教室関係者の声 平成26年度第2回コーディネーター等研修会より～

- 各関係機関が連携をすることで、子供への理解が深まり、より子供の実態に応じた支援が可能になる。
- 学校・家庭・地域など、それぞれ立場が違って同じ方向性で取り組むことができるようになる。
- 核家族が多い中、多様な人との交流は子供の心を豊かにする。また、子供たちは様々な人との関わりを通して「がまん」や「仲間づくり」を自然に身に付けることができる。
- 学校・家庭・地域の連携が深まることで、地域ぐるみで子どもを育てる態勢ができる。
- 地域の特色・人材を生かすことで、活動の幅が広がり、有意義な学習や体験をすることができる。
- 地域の人が子供たちと顔見知りになることで、防犯対策につながる。

2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(1) 教室関係者等の声

～平成24, 25, 26年度放課後子供教室関係者等研修会参加者アンケートより～

- 先生と子供のことについて話したいができない。
- 学校関係者と一緒に研修ができればよい。
- 保護者との関わり方について研修したい。
- 保護者に話したいことがあっても、なかなか機会がない。
- 他の教室や児童クラブの取組内容を聞き、課題や悩みを共有したい。



教室関係者等の声からも、連携への必要感が高まっている

2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(2) アンケートの方法

～平成26年度第1回コーディネーター等研修会参加者振返りシートより～

平成26年度第1回コーディネーター等研修会の参加者に振返りシート(次の頁)を実施し、各市町の放課後子供教室における、学校・家庭・放課後児童クラブ・他の放課後子供教室との連携の状況を調査(平成26年11月17日)

※ 県内9市町(県内放課後子供教室実施20市町の内)、15名(県内配置コーディネーター55名の内)の放課後子供教室コーディネーター、5名の市町担当者計20名からの回答

2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(3) アンケートの様式

～コーディネーター等研修会参加者振返りシートより～

あなたの放課後子供教室と各機関との連携 振返りシート

名前()

1 あなたの放課後子供教室では、放課後と何が連携をしていますか。最も多い()のものをください。そのほか、長所・短所を具体的に記入してください。

- 放課後子供教室から、放課後に教室の状況や子供の様子等についての情報を定期、又は不定期に提供している。
- 放課後から、家庭や保育園などを連携してもらっている。
- 放課後が参加する遊樂を行っている。
- 放課後と協働したり運営について意見をもらったりする場を設けている。
- その他、放課後と最も連携している。

2 あなたの放課後子供教室では、学校と何が連携をしていますか。最も多い()のものをください。そのほか、長所・短所を具体的に記入してください。

- 放課後子供教室から、学校に教室の状況や子供の様子等についての情報を定期、又は不定期に提供している。
- 学校から、家庭や保育園などを連携してもらっている。
- 学校関係者が参加する遊樂を行っている。
- 学校関係者と協働したり運営について意見をもらったりする場を設けている。
- その他、学校関係者と最も連携している。

3 あなたの放課後子供教室では、放課後児童クラブと何が連携をしていますか。最も多い()のものをください。そのほか、長所・短所を具体的に記入してください。

- 放課後子供教室から、放課後児童クラブに教室の状況や子供の様子等についての情報を定期、又は不定期に提供している。
- 放課後児童クラブから、家庭や保育園などを連携してもらっている。
- 放課後児童クラブが参加する遊樂を行っている。
- 放課後児童クラブと協働したり運営について意見をもらったりする場を設けている。
- その他、放課後児童クラブと最も連携している。

4 あなたの放課後子供教室では、他の放課後子供教室と何が連携をしていますか。最も多い()のものをください。そのほか、長所・短所を具体的に記入してください。

- 放課後子供教室から、他の放課後子供教室に、教室の状況や子供の様子等についての情報を定期、又は不定期に提供している。
- 他の放課後子供教室から、家庭や保育園などを連携してもらっている。
- 他の放課後子供教室が参加する遊樂を行っている。
- 他の放課後子供教室と協働したり運営について意見をもらったりする場を設けている。
- その他、他の放課後子供教室と最も連携している。

5 全校、さらに連携の必要があると思われる機関はどれですか。

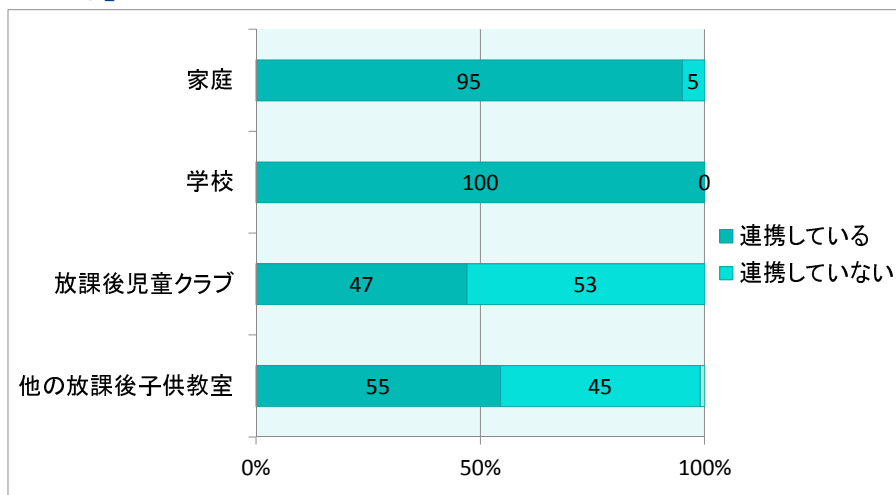
6 全校、さらに連携するべきと思われる機関はどれですか。



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(4) 各関係機関との連携

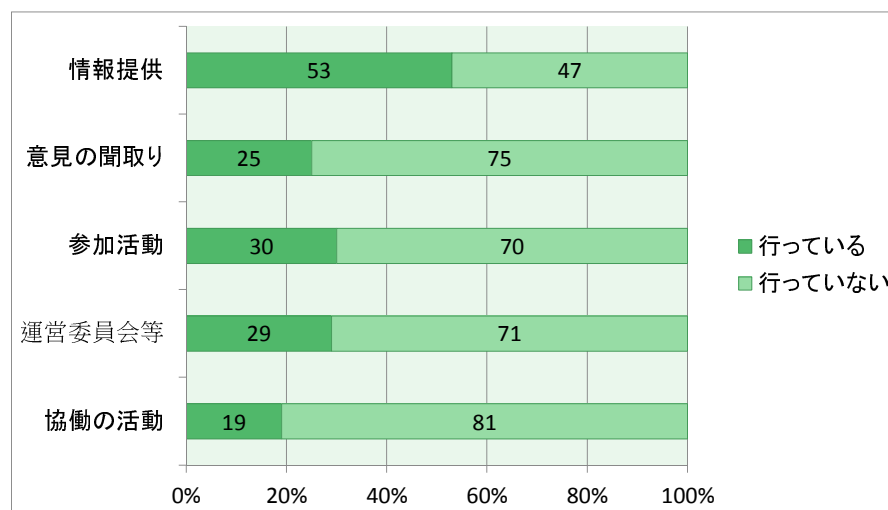
「担当する放課後子供教室と各機関との間で、何らかの連携をしている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(5) 連携の方法

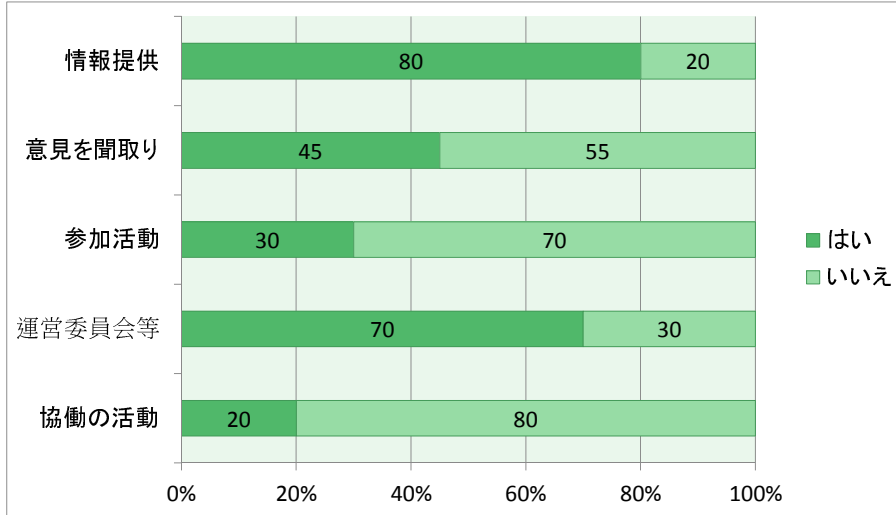
「放課後子供教室と各関係機関との間で次の方法の連携を行っている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(6) 学校との連携

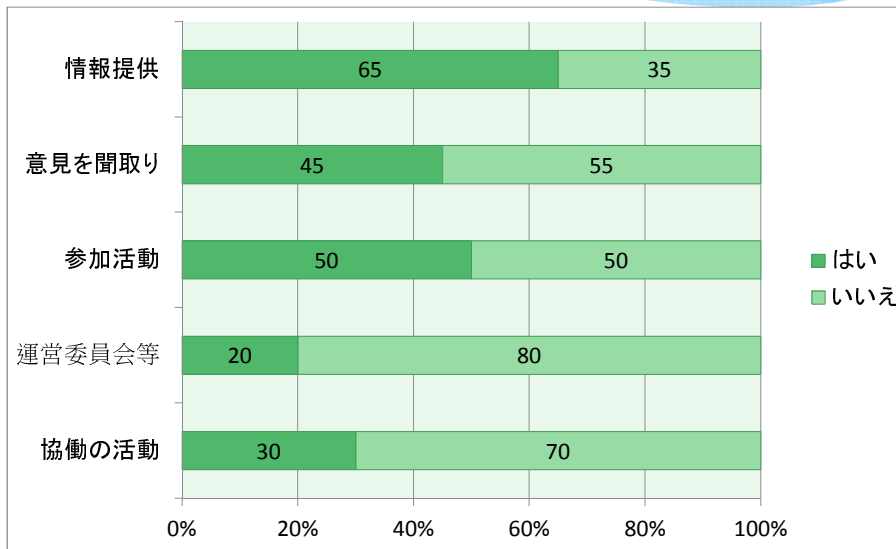
「学校と次の連携を行っている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(7) 家庭との連携

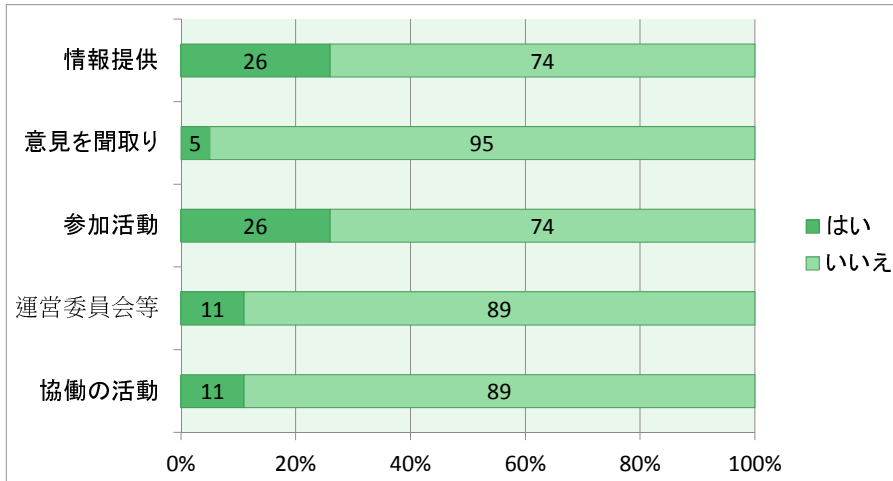
「保護者と次の連携を行っている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(8) 放課後児童クラブとの連携

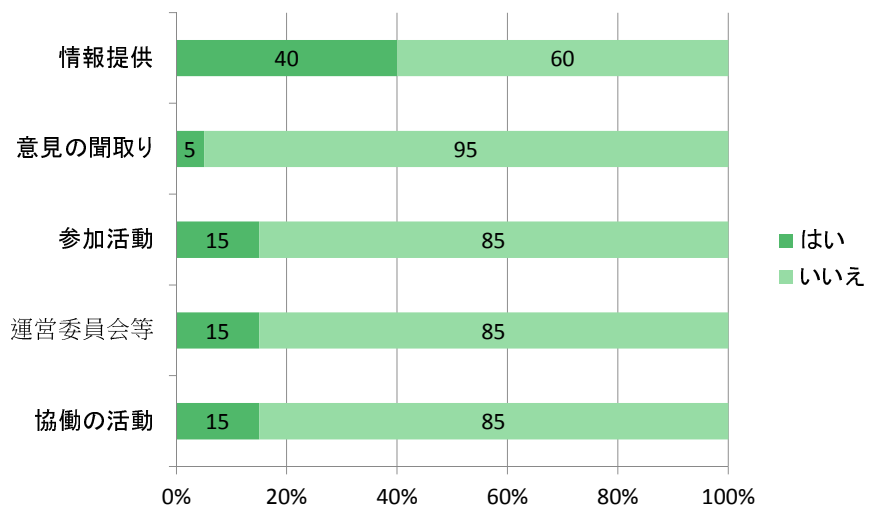
「放課後児童クラブと次の連携を行っている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(9) 他の放課後子供教室との連携

「他の放課後子供教室と次の連携を行っている」



2 連携に関わる現状と分析～県内の傾向～

(10) 今後進めていきたい連携

(A) 学校との連携—協働の活動

(B) 家庭との連携—運営に関わる協議など

(C) 放課後児童クラブとの連携

—まずは情報の共有から

3 連携のモデル事例

(1) 広島県庄原市 山内放課後 子ども教室

＜学校、家庭との連携モデル事例＞

※平成25年度

「優れた『地域による
学校支援活動』推進
に係る文部科学大臣
表彰」受賞

出典：参考文献(7)

| | |
|----------|------------|
| 広島県庄原市 | |
| ■ 活動名 | 山内放課後子ども教室 |
| ■ 関係する学校 | 庄原市立山内小学校 |

| 活動区分 | 活動の名称 | 実施頻度 | 実施の形態 |
|-------------|---------------------------------|--------------|-----------|
| 放課後 子供教室 | コーディネーター数 子供の平均参加人数 指導員数 補助員の有無 | 1人 9人 239日 有 | 実施年度 開始年度 |
| 実施年度 | 22年度 | 22年度 | 2017年度 |
| 実施場所 | 庄原市山内自治協賛センター | 実施年度 | 実施場所 |
| 実施場所 | 山内小学校 | 実施年度 | 実施場所 |
| 実施場所 | 山内小学校 | 実施年度 | 実施場所 |

※H24年度の事業(補助)の実績についてはH25年度の表を参照

活動の概要 山内放課後子ども教室は、安全・安心な子供の活動拠点を設け、地域住民の方々の協力を得て、子供たちとともに、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動などの取組を提供することを目的に活動を行っている。
活動は、放課後や長期休業中の子供たちの活動拠点を提供するだけでなく、指導方針を定め、地域住民の方々の協力を得ながら活動を行っている。
具体的には、英語、音楽、図の観察などの学習活動、サッカーやドッジボールなどのスポーツ活動、川遊びやジャガイモ栽培などの自然体験活動、地域行事を通じた地域住民との交流活動など、多様な活動を行っている。
活動の拠点は、小学校に隣接している自治協賛センター（旧公民館）で行っており、平日は、下校時から午前10時30分まで、長期休業中は、午前8時から午後5時30分まで活動を行っている。
また、自治協賛センターを活動拠点にしている利用を活かし、教室の活動成果を展示するなど、地域住民の方へ広報活動を行っている。

- 特徴**
- ◎教室での活動成果を地域行事で発表
文化活動を取り組んでから、地域行事「ふるさと祭り」で発表し、地域住民の方へ教室の活動成果を披露するとともに、活動への参加を図っている。
 - ◎教室独自の学習教材(英語)の作成・活用
毎月1回発表、算数(金銭)地域の学習活動を行っている。教材は、教育活動推進員を中心に作成し、継続した学習活動を行っている。
 - ◎ポフティア活動の実施
毎年、地域にある関係機関の清掃をポフティア活動として行い、8月6日の原爆の日に平和学習を行っている。
 - ◎地域住民の方々による多様な活動
地域住民の参加により、14人の教育サポーターが、多様な活動を展開している。
- <主な活動>
- ◎自然体験活動(川遊び、カヌー体験、海の家取り、農作物栽培等)
 - ◎遊び・体力づくり(フットボール、卓球、一輪車作り、ドッジボール等)
 - ◎文化活動(人形劇の発表等) ◎行事の企画(運動会、クリスマス会、七夕、夏祭り等)
 - ◎その他
- (得意づくり、ふるさと祭りの参加(地域交流)、社会教育関係施設での活動等)
- 【実施に当たっての工夫】**
- ◎指導方針を定めた教育推進
経験豊富な、自分のやりたいことや楽しいことを活動するのではなく、学習活動やスポーツ活動、体験活動などの様々な活動を通して、新しいことにも簡単に、最後までやりきり力や行動と協力がする力、好奇心や考えの力、感動する心を育むために、かつ指導方針を定めて活動している。
 - <指導方針>
①安心して、安全に過ごせる場とする。
②授業、専ら楽しむ環境を創り出し、人間性を育てる場とする。
③集団の中で互いの力を身につけさせる場とする。
④集団での活動の楽しみを守らせる。
⑤保護者、学校の連携を図る。
 - ◎報告会議を開催(毎月1回)
毎月1回指導者会議を開催し、その月の活動内容を検討するとともに、指導者の課題解決を図っている。

■ 効果を発揮して

保護者からは、「基本的な生活習慣が向上した」などの感想が寄せられ、家庭ではできない様々な体験的な活動を通して、子供の成長が見られることへの喜び評価を得ている。教室内での異年齢交流だけでなく、教育サポーター、地域住民と関わる機会が増え、地域全体で子供を育てる仕組みが確立している。

3 連携のモデル事例

(1) 広島県庄原市 山内放課後子ども教室

○学校との連携

- ・ 小学校に隣接された自治振興センターで教室を実施という立地条件を活用し、関係者との連携を図る。
- ・ 月に一度の指導者会に小学校長が出席し、学校の教育方針や教室のねらいや活動等について連携。
→子供たちの成長を学校と共に見守る。(A)学校との連携—協働の活動

○家庭との連携

- ・ 指導方針の一つに「保護者、学校との連携を密にする」ことを掲げる。
- ・ 連絡帳等を活用し、保護者と生活面・学習面において連絡を取り合う。
- ・ 保護者からの高い評価を受けている。

3 連携のモデル事例

(2) 広島県府中町 府中町放課後子供教室

＜家庭、放課後児童クラブ、放課後子供教室間の連携事例＞

※平成24年度

「優れた『地域による学校支援活動』推進に係る文部科学大臣表彰」受賞(学校支援地域本部)

出典:参考文献(7)

～地域の子供は地域で育てる～府中町放課後子供教室 【府中町】

教室の概要

子供たちが地域社会で、心豊かに育まれる環境づくりを推進するため、子供たちの安全・安心な活動拠点(場所)づくりを推進する。このため、「府中町放課後子供教室」を創設し、町内の小学校区において、放課後や週末等に小学校施設や公民館施設等を活用し、地域の方々の参画を得て、子供たちと共に勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等の取組を実施する。

| | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 【開始年度】平成19年度 | 【実施校区】町内の小学校区(6校) |
| 【開催場所】各小学校の余裕教室及び公民館施設 | 【コーディネーター人数】2人 |
| 【開催日・開催時間】水・土曜日 | 【安全管理員・学習アドバイザー人数】45人 |
| 【年間開催日数】48日 | 【ボランティア人数】10人 |
| 【参加学年・平均参加人数】 各教室小学校1～6年生 16人 | |

活動内容

【事例①】百人一首「小学校区合同カルタ大会」
小学校5校で、1年間を通じて百人一首に取り組み、元教員の地域の方が講師として、指導している。年度末に1年間の成果発表として、小学校区合同のカルタ大会及び歌唱会を行う。



真似な様子 世界のフォークダンス マリンバ演奏

【事例②】公民館定期活動(町によるダンス体験)
公民館での学習成果を地域の児童に還元することを目的とし、町内5小学校でフォークダンス体験をした。(体験を通じて、日本や世界の文化に触れることができた。最初は恥ずかしがっていた子供たちも楽しさを味わった。)

【事例③】ウインターコンサート「府中町在住の大学生によるマリンバコンサート」
放課後子供教室の児童、留守家庭児童会の児童及びその家族を対象に、交流するという目的で実施した。多様な音色を奏でるマリンバに聞き入っていた。演奏者の大学生は、府中町内の小中学校出身ということもあり、身近な存在に接れて、マリンバを習いたいという子供もいた。クリスマス曲のモデル演奏とサンタクロース出演で季節感を感じた。

運営上の工夫

- 公民館活動との連携
・ 地域の方々が、公民館で学習したことを活かして、放課後子供教室のボランティアとして活動している。
- 放課後子供教室と留守家庭児童会(放課後児童クラブ)との合同事業の実施
・ 子供たちが互いに知り合い、交流を深めること。また、教室のスタッフと児童会(クラブ)の指導員が、互いの活動等について知ることを目的として、コンサートなど、合同で事業を実施している。
- ボランティアの確保
・ 公民館定期活動(合唱隊)の方へ対象に、放課後子供教室推進事業の開始を促るとともに、「『親の力』をまなびあう学習プログラム講座」を受講していただき、子供との接し方等について、学んでいただいている。

事業を実施して

- ・ 5教室合同の教室を開催することで、子供たちも、スタッフ・ボランティアも校区を越えて交流することができている。ボランティアについては、担当外の教室へも支援に赴くなど、風通しの良い活動ができています。
- ・ 百人一首については、教室より学習進度も違うので、ボランティア間の連携を図っていく必要がある。
- ・ 放課後子供教室と留守家庭児童会の連携事業については、連携の効果及び具体的な連携の方策について、引き続き様

3 連携のモデル事例

(2) 広島県府中町 府中町放課後子供教室

○家庭との連携

- ・ 保護者対象に説明会を兼ねて、「親プロ」講座実施
- ・ 保護者同士の交流を目的に、町内の放課後子供教室、放課後児童クラブの子供と保護者が参加する行事を開催→(B)家庭との連携—運営に関わる協議

○放課後児童クラブとの連携

- ・ 子供たちが互いに知り合い、スタッフ同士も活動などを知るところを目的に、町内の放課後子供教室、放課後児童クラブ合同の行事を実施
- ・ 町内の放課後子供教室、放課後児童クラブスタッフ合同の研修会を行う→(C)放課後児童クラブとの連携—まずは情報の共有

○放課後子供教室間の連携

- ・ 町内5教室が、年間を通して百人一首に取り組み、成果発表の場として5教室合同カルタ大会を開催するなど、学校区を超えた交流の取組。

3 連携のモデル事例

(3) 京都府長岡京市 神足すくすく 教室

<学校との連携モデル事例>

※平成25年度
「優れた『地域による
学校支援活動』推進
に係る文部科学大臣
表彰」受賞

出典：参考文献(7)

| | | | |
|------------|--|--|--|
| 京都府長岡京市 | | | |
| ■活動名 | | | |
| 神足すくすく教室 | | | |
| ■関係する学校 | | | |
| 長岡京市立神足小学校 | | | |

| | | | | | |
|------|---------|-----------------|-----------------|--------|-------|
| 連携区分 | 伊賀市 | コーディネーター | ボランティア数 | 関係先 | 補助の有無 |
| | 放課後子供教室 | コーディネーター | 子供の参加人数 | 年間実施回数 | 補助の有無 |
| | 伊賀市 | 1人 | 85人 | 94日 | 有 |
| | 伊賀市 | 伊賀市、伊賀市、伊賀市、伊賀市 | 伊賀市、伊賀市、伊賀市、伊賀市 | 19年度 | 伊賀市 |
| 伊賀市 | 伊賀市 | 伊賀市 | 伊賀市 | 伊賀市 | 伊賀市 |

活動の概要
 ・漢字・歴史・英会話・手話教室など学習教室と茶道、書休みのプール教室、習字、しめ縄作りなど地域の中学生や高齢者など多くの方に協力を得て、教室を実施している。
 ・地域の「お祭りやイベント」や「イベント」や「イベント」の行事では、協力の提供
 ・子供たちの豊かな体験活動のために、京都府が実施している大学教授や企業等の専門的な講師を派遣する特別講師派遣事業を積極的に活用している。
 ・「夏のスズキアカデミー」として、乙訓高校陸上部による「陸上教室」や長岡中学校による「水泳教室」を行い、地域の学校との連携が図られている。
 ・授業時間外として週に4回、ボランティアによる図書貸借がされており、児童への貸し出しや図書整理がされている。
 ・神足小学校は、体験型の環境学習に取り組んでいる。「すくすく教室」のボランティアを中心に、竹林整備によるタケノコの収穫、木田川による川の清掃、中庭に井戸を掘り手押しポンプを設置して、池やビオトープを作りホタルや水生生物の生態を観察するなど、学校教育との連携も図っている。

特徴

【特徴的な活動内容】
 ・地域住民やPTAを中心に地域ぐるみで神足すくすく教室に関わり、校区内の様々な知識や技術を携った人材がボランティアとして、多様な活動を行い、学校と地域が一体となった運営体制である。
 ・神足小学校のホームページにすくすく教室のコーナーがあり、各種申込書や予定表がダウンロード可能である。
 ・毎月、計画一覧を作成し、「すくすく教室」参加申込みについての文書を全児童に配布している。

【実施に当たっての工夫】
 ・運営委員11人(PTA・PTAのOB・学校評議員)及び安全管理員・学習指導員で、2カ月に1回、全体会を実施し、主に参加児童の取り組む様子を情報交換している。
 ・運営委員会では、活動運営内容について、月2回打ち合わせを行っている。自治会の役員がスタッフとして参加しているため、地域において「すくすく教室」に対する理解が得られ、協力体制も強い。
 ・PTA総会、新入生説明会で「すくすく教室」の取組を紹介している。

■事業を実施して
 ・運営委員会を中心とした組織体制が整い、主体的に運営されている。地域社会の絆を強める取組となっており、地域の教育力の向上につながっている。
 ・学習活動や体験活動等の内容が多様で参加児童も長岡京市では一番多く、放課後子供教室の運営に合った取組となっており、放課後の子供の活動の豊かになっている。



タケノコ掘り体験教室



3 連携のモデル事例

(3) 京都府長岡京市 神足すくすく教室

○学校との連携

- ・ 放課後子供教室関係者が、学校の環境教育の取組にボランティアとして協力するなどして、学校教育と連携
- ・ 校区の小学校以外にも、地域の高校陸上部による「陸上教室」や、地域の中学校による「水泳教室」を行うなど、地域の学校とも連携
- ・ 放課後子供教室関係者ととも、PTAや、PTAのOBや学校評議員からなる運営委員会を組織し、定期的の子供たちの様子や、活動内容等について情報交換を行う
→(A)学校との連携—協働の活動
- ・ 神足小学校のホームページに教室のコーナーがあり、申込書や予定表のダウンロードが可能
- ・ 毎月の計画を作成し学校を通して参加申込み等の文書を全児童に配布
- ・ PTA総会、入学説明会等の学校行事を活用し教室の取組紹介

3 連携のモデル事例 (4) 東京都世田谷区 BOP(ポップ)

※平成26年度「放課後子ども推進プランに関する自治体担当者会議【資料3】一体的な、又は連携によるモデルケース(例)」より

I. モデルケース(毎日型)

東京都

世田谷区

～放課後の自由な遊び場である「BOP」と、放課後に児童の保護・育成を行う「新BOP学童クラブ」を一体的に運営～

概要

世田谷区では、児童の健全育成を図るには、子育て家庭への支援とともに、児童の居場所を確保し、自由な遊びや体験・交流の場や仕組みを充実していく必要があるとの考えから、「BOP」と「学童クラブ」を統合した「新BOP事業」を実施している。
(BOPとは…ポップ=Base Of Playing:遊びの基地)



ポイント

- 児童館や保護者・地域と連携し、校庭・体育館を利用したイベントや映画会等の室内イベントなど、新BOPの参加児童全員が楽しめるような様々なイベントを実施している。
- 1年生から6年生までの児童がひとつのイベントに参加することによって異学年交流を促進するとともに、様々な体験を通して児童の主体性・リーダーシップ等を養っている。
- PTA・学童クラブ保護者・遊び場開放運営委員会・青少年委員等地域関係者・学校・行政が参加する「新BOP連絡協議会」を設置し、円滑な運営と内容の充実を図っている。
- 新BOPは、子ども・若者部児童課と教育委員会事務局生涯学習・地域・学校連携課が共同で運営することで、学校や児童館との連携、地域との交流などを円滑に進めている。

取組の効果

- 児童館で運営していた学童クラブを小学校に移し、余裕教室を活用し新BOPとして運営したことで、定員にとらわれず、全ての児童が放課後、学校内で一緒に遊び、交流することが可能となった。

基礎データ

(平成26年5月1日現在)

| | 放課後児童クラブ | 放課後子供教室 |
|---------|--------------|---------|
| 活動日数 | 290日程度 | 290日程度 |
| 実施場所 | 余裕教室 | 余裕教室 |
| 共通の活動場所 | 校庭・体育館・特別教室等 | |

3 連携のモデル事例

(4) 東京都世田谷区 BOP(ポップ)

<放課後児童クラブとの一体的実施モデル事例>

○システム

- ・ 小学校に併設された施設に、「新BOP室1」と、「新BOP室2」があり、「新BOP室1」は主に学童クラブに登録している児童が使い、「新BOP室2」はBOP児童と、学童クラブ児童の双方が使う。
- ・ 「新BOP室1」には学童クラブに所属している児童の名前入りロッカーがあり、子供の出席等は連絡帳で確認をする。「新BOP室2」には誰でも利用できるロッカーがあり、子供はクラスごとの名簿に自分で丸をつける。
- ・ 子供たちは学校が終わるとランドセルを持って「新BOP室」にきて自由遊び等の時間を過ごす。
- ・ 学童児童のスケジュールは、BOP児童が終わるまではおやつ以外の時間以外は同じ。
- ・ 午後5時になるとBOP児童が帰宅。その後は学童に所属している子供だけで学習や読者など室内で静かに過ごす。

3 連携のモデル事例

(4) 東京都世田谷区 BOP(ポップ)

○活動の工夫

- ・ 小学校に隣接した建物に、児童クラブと放課後子供教室の部屋が並んで設置という環境の利点を生かし、クラブと教室間の壁を極力つくらない取組

→(C)放課後児童クラブとの連携—まずは情報の共有

- ・ 子供たちが自由遊びを楽しむ中で、友達関係を広げるために、イベントを定期的で開催し、普段自主的には遊ばない子供同士の交流を促進
- ・ 学童の保護者からの「学習の時間も確保して欲しい」という要望を受けて、「学習タイム」を設定することで、体験活動と共に学習時間も保障

注1:学童クラブ, BOP学童...放課後児童クラブ

注2:(新)BOP...放課後子供教室

4 連携についての提案

(1) 学校との連携

(A) 学校との連携—協働の活動

→連携しやすい行事での連携

多忙な教職員も夏季休業中なら比較的時間の都合が付きやすい

・夏休みに開催する放課後子供教室の行事に参加を呼びかけ、協力を依頼する。

・教職員にゲストティーチャーとして参加してもらう。

4 連携についての提案

(1) 学校との連携～その他の取組提案～

・日誌を作成し職員室に返却、回覧システムを作る。

・便り、教室関係の配布物は学校を通して配布する。

・職員室内にコーディネーターの席を配置してもらう。

・コーディネーターが学校支援地域本部等の協力をし、学校の教育活動にボランティアとして参加する。→**教室運営について連携、子供の情報を共有、相談しやすい関係を作る。**

・入学説明会で放課後子供教室の案内をする。

・PTA総会等で全学年の保護者に向け、放課後子供教室の活動紹介、参加呼掛けをする。

・学校のHPに放課後子供教室の実施予定等の情報のスペースを作り、HPから入会手続き書類がダウンロードできるようにする。

・学校のHPから放課後子供教室の便りにつながるリンクを貼る。→**学校関係者に放課後子供教室の活動内容を知ってもらうとともに、繰り返し広く多くの保護者、子供に放課後子供教室の活動について知ってもらう。**

4 連携についての提案

(2) 家庭との連携

(B) 家庭との連携—運営に関わる協議など

→連携しやすい行事で連携を深める

- ・季節感のある行事で参加を呼びかける(夏祭り, クリスマス等)
- ・土曜日に親子向けイベントを企画
- ・参加する保護者に役割を与える(料理, 縫物, 工作等の先生)
- ・父親の出番, 活躍を意識した協力要請(デイキャンプ, 年末大掃除等)
- ・協力者バンクを作り, 保護者に登録を呼びかけ, 関連行事の時に協力を依頼
- ・年度初めに保護者向け説明会を行い, 運営に関する理解を高めるとともに, 保護者からの教室運営に関するニーズを収集
- ・機会を捉えて, 「親プロ」等を活用し, 子育てに関する意識を高めるとともに保護者同士が学び合える雰囲気づくりをする。

4 連携についての提案

(2) 家庭との連携～その他の取組提案～

- ・連絡ノートや, 出席カードを作成
- ・送迎を保護者にしてもらい, 顔を合わせた時に話をする。
- ・普段から子供の様子について話せる関係をつくっておく。
- ・機会を捉えて, 保護者, 子供にアンケート等を行い放課後子供教室に対する声をキャッチ→普段から関係を作っておき, 何かあった時には話のできる関係をお互いに構築する。
- ・定期的に放課後子供教室の便りを発行し, 教室運営の様子について知らせる
- ・参観日や学校の地域公開の日に合わせ, 放課後子供教室を開催→放課後子供教室の参加者, 未参加者を含めて広く知ってもらう機会を作る。

4 連携についての提案

(3) 放課後児童クラブとの連携

(C) 放課後児童クラブとの連携—まずは情報の共有から →連携の素地づくり

- ・共に子供を育てるという意識に立つ。
- ・お互いに情報を共有し、児童理解を深める。
- ・特別な時だけでなく、普段から子供の様子について話せる関係をつくっておく。
- ・便りをお互いに交換し合い、活動について知る。
- ・合同の研修機会を持ち、共に専門的な知識を高める。
- ・定期的に連絡会議を行う。

4 連携についての提案

(3) 放課後児童クラブとの連携～その他の取組提案～

- ・放課後子供教室と放課後児童クラブの場所が学校に併設、あるいは隣接している場合は、グラウンドや体育館を利用して自由遊びを行う
- ・一つの会場で多くの子供が共に体験できる活動を工夫する(読み聞かせ、音楽会など)
- ・放課後子供教室、放課後児童クラブでそれぞれ練習を行い、発表や対戦を合同で行うことで、普段の活動にも、めあてが持てる(縄跳び大会、ドッジボール大会、かるた大会)
- ・制作活動を放課後子供教室、放課後児童クラブで行い、展示や発表を合同で行う(公民館祭り、文化祭などへの出品、平和の折鶴)→連携しやすい行事を共に活動することで子供の意欲が、より高まる活動

5 まとめ

<今後へ向けて>

今回、放課後子供教室と各関係機関との連携の状況について調査研究を行うことにより、国の目標、現場の関係者からの必要感に対して、放課後子供教室と関係機関との連携が、十分には進んでいない状況が明らかになった。

そこには、予算の壁、人員の壁、時間の壁、環境の壁など多くの解決しなければならないことがある。これらは個人のレベルでは、なかなか解決できないけれど、各関係機関との連携を充実させていくことが子供の成長にとって有意義なことであるという意識に立ち、まずは、「連携は必要ない」、「必要だけどできない」という意識の壁から突破していきたい。そのために、今後の研修等のあり方を工夫、検討するとともに、本調査研究をその一助としたい。

参考文献

- (1) 文部科学省 厚生労働省 「放課後子ども総合プランに関する自治体担当者会議」【資料1】「放課後子ども総合プランについて」平成26年8月11日
- (2) 文部科学省 厚生労働省 「放課後子ども総合プランに関する自治体担当者会議」【資料5】「放課後子供教室等について」平成26年8月11日
- (3) 財団法人 日本システム開発研究所 平成19年度文部科学省委託調査『総合的な放課後対策推進のための調査研究』「放課後子どもプラン実施状況調査報告書」平成20年3月
- (4) 文部科学省「放課後子どもプラン実施状況調査について」平成20年6月23日
- (5) 文部科学省 厚生労働省 「放課後子ども総合プランに関する自治体担当者会議」【資料3】「一体的な、又は連携によるモデルケース(例)」平成26年8月11日
- (6) 文部科学省 厚生労働省 「放課後子ども総合プランに関する自治体担当者会議」【資料4】「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)について」平成26年8月11日
- (7) 文部科学省 厚生労働省HP 「学校と地域でつくる学びの未来」
- (8) 広島県立生涯学習センター「平成24年度放課後子ども教室コーディネーター等研修会 事例発表資料」自治振興区による放課後子ども教室の取組 庄原市内自治振興区」平成24年11月14日(奥安裕美)
- (9) 広島県立生涯学習センター「平成25年度放課後子ども教室コーディネーター等研修会 事例発表資料」～地域の子どもは地域で育てる～府中町放課後子ども教室」平成25年11月12日(長岡聖奈子)
- (10) 広島県立生涯学習センターHP「親プロ」講座の様子 平成24年度【府中町放課後子ども教室】」平成26年12月19日
- (11) 広島県教育委員会「平成24年度放課後子ども教室推進事業放課後子ども教室コーディネーター等研修資料」安全・安心な放課後の居場所づくりのために」平成25年3月
- (12) 日経BP社「日経DUAL」高い出席率が人気を物語る世田谷区の新BOP学童」平成26年12月11日 <http://dual.nikkei.co.jp/article.aspx?id>
- (13) 厚生労働省 雇用機会均等・児童家庭局育成環境課 「放課後児童クラブ実践事例集」平成21年3月
- (14) 志々田まなみ「『学校支援を核とした地域づくり』にむけた課題」社会教育 一般財団法人 日本青年館 2014年5月号 p.50-56
- (15) 永井順園ほか「学校と地域の連携・協働による『放課後』土曜日の充実」社会教育一般財団法人 日本青年館 2014年5月号 p.8-32
- (16) 中央教育審議会生涯学習分科会 今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループ「子供たちの豊かな学びのための放課後・土曜日の教育環境づくり～あったらいいなを形にする夢の教育～」平成26年度6月25日
- (17) 永井順園ほか「学校教育との連携・協働による地域コミュニティの形成」社会教育 2013年5月号 p.8-29
- (18) 広島県立生涯学習センター 平成26年度第1回放課後子供教室コーディネーター等研修会 参加者振り返りシート 平成26年11月17日
- (19) 広島県立生涯学習センター 平成26年度第2回放課後子供教室コーディネーター等研修資料「放課後子供教室と関係機関との連携について」平成27年3月5日